

昭和廿五年五月廿八日

五二五 受信 〇〇一四〇〇 譯了 〇三五五 電一二〇三七 參作 本 概

緊急

● 共

符

● 東通・横通・聯合艦隊P・三航空艦隊P

● 小笠原部隊指揮官



機密第二四一九二〇番電 二分ノ一

發 南鳥島守備部隊指揮官

着信者 横須賀鎮守府司令長官 軍令部次長 大本營海軍參謀部次長

受報者 第二六潜水隊司令 第七二五航空隊司令

戰鬥概報(五月二十四日)

一(イ) B I 二四、二機一五一九ヨリ一七〇〇迄約一時間ニ亘リ周邊旋回

中一六二五 B I 二四・二四機發見第一群六機北海岸一三三〇親子

爆彈第二群九機及旋回中ノ一機北海岸ヨリ中央地帯ヘカケ六〇班

爆彈次テ第三群九機及旋回中ノ一機南海岸ヨリ中央地帯ヘカケ小

通一三四五七 品一 B ラ一八(五一〇〇 KC) 母艦 川本(小澤綾)(一)

望遠鏡發爆彈ヲ投下一七〇三之ヲ擊退セリ

(四) 敵潜水艦一隻浮上又ハ潛没ニテ〇四三四ヨリ一八〇八迄六〇度乃至

八〇度南方ヲ哨戒(最近距離六・〇〇〇米)

一電信課註 本電二分ノ二未着

(二)

五 二五

受信 〇〇五五〇

譯了 〇七四一

電 一二〇七四

參作

本概

緊急

總無線艦所用共通符號

東通・聯合艦隊口・橫通・第三航空艦隊口



小笠原部隊

機密 第二四一九二〇番電 二分ノ二

着信者 軍令部長 横須賀長官 參謀次長

受報者 第十六潜水隊司令 七五二空司令

發 南島島守備部隊指揮官

二 發射彈數 (殘彈數) 十二 輝七 高角砲七四九 (七〇三) 八 輝高角

砲一九 (二五二五) 二十五 耗機銃四三四 十三 耗機銃八八

三 戰果 擊破四

四 被害 戰死海軍兵一名 陸軍兵二 十三 耗 (單裝) 機銃一直 擊修理可

能 貨物自動車一破 壞 大發一中破 造水機給水「タンク」一及戰  
時治療所直擊 (貫通) 中破 幕舎五大破

(東通註 誤字多シ 既配布)

通 一三四六五 呂一 日ラ十八 (二五五七、五K) 橫須賀 宮崎 (雨谷)

昭和廿年五月廿八日

五二五

受信〇九〇〇  
譯始一〇三〇〇

譯了二一五二

電自二二二八六

參作

本概

昭和廿年五月廿八日



三〇根職岡概報着信艦所・先遣部隊  
五航空艦隊

四六警備隊・ヤツブ航空基地

機密第二四一九二一番電三分ノ二二三

三〇B.G 職岡概報 (五月二十四日)

一 P P 附近行動敵艦船

(1) 五月二十四日〇八一〇第二項ノ船團及〇七〇五ヨリ〇七二五ノ間コス

ソル水道ヲ出港セル輸送船三 (八千噸級滿載一、七千噸級滿載二) 曳

船一 (大型舟艇二曳航) ハ同電第一項ノ外ニ四潛艇〇八四〇 P P 燈臺

ノ五〇度水平線ニ於テ北西進〇九五〇同燈臺ノ四五度水平線外ニ見失

フ

通  
三三六  
三三六  
三三六  
一〇五  
六〇五

呂一Bヲ十四 (一五七一〇KC) 三通 大塚 (小林) (-)

(ロ) 〇六五〇 輸送船一隻 (八千噸級滿載) 長山泊地入港

(ハ) 一一〇〇 輸送船二 (何レモ八千噸級滿載) コスソル水道出港 一隻ハ

アルコロン燈臺ノ三〇度他ノ一隻ハ同燈臺ノ六〇度水平線外ニ没ス

ニ 視界内敵艦船碇泊狀況

(イ) コスソル水道小型輸送船二 大型油槽船二 小艦艇一

(ロ) P P P 周邊區逐艦一掃 海艇三 小艦艇一二

三 昨二十三 日一八四五ヨリ 〇四〇〇迄敵機一〇機 〇六四五ヨリ 一七二五

四 四〇延一六機 T B F 三計二九 P P 三來襲銃撃

四 敵機 P P P 發着

(イ) 昨二十三 日一一〇〇ヨリ 一六〇〇迄輸送機一二・〇度へ 一三・一八

〇度へ 四・二七〇度へ 發四・〇度ヨリ 三・一八〇度ヨリ 五・二七

〇度ヨリ 着 (二十三 日輸送機七一發 二〇着 B I 二四 二發)

(ロ) 本二十四 日一六〇〇迄輸送機四・六〇度へ 二・九〇度へ 一〇・一八

〇度へ 七・二七〇度へ 發四・九〇度ヨリ 一三・一八〇度ヨリ 一

二七〇度ヨリ 着 B I 二四 一・〇度ヨリ 着。

(二)

人

傍

五三〇

譯信二〇三〇

譯了三〇〇電一四九六六

參作概〇

着 聯合艦隊

符

其

符

機密第二四二〇三五番電 九分二六

(1) 山砲、遊擊的砲撃「ウルクタル島」及同島西  
北小島三箇所、後尾洞窟陣地ヲ構築主トシテ  
薄暮敵駆潛艇ニ對シテ不意急襲的ニ射撃  
ヲ集中敵、報復前之ヲ徹シ洞窟ニ入り尚  
機ヲ見テ以上三箇所、陣地ヲ逐次遊擊的ニ移  
動ス

通 一六四三九

一三〇三十四(一三三二〇) KC 三 通

見玉(吾井)

昭和六年六月

(14) 遊泳攻撃用一型水中爆薬(炸薬量約五〇觔)

水中上炎火ヲ確、實ナラシムル爲ニ固、炎火具ヲ  
装ニ具水圧ニ依ル導火索、消火ヲ去來得ル限  
リ防止、爲特別防濕装置ヲ附ス。小艇ヲ携  
行游泳ニ依リ敵駆逐艇ニ近接之ヲ裝着炎  
火又夜暗日没後微速ヲ以テ航行スル駆潜艇  
ヲモ游泳ニ依リ近接締結スル如ク特別訓練ヲ  
實施ス

以下九分、三四五既配布ニ

(1) 敵ハ我ガ果敢ナル攻撃ト更ニ高力猛再報復ニ  
大脅威ヲ感シヨリ水道周邊ヨリ遠ク其、  
駆潜艇ヲ退避セシメタル後、桑ヲシテヨリ水道  
ニ於ケル交通妨害航行補給、制海權ヲ奪  
回セシメ得タリ

(2)

昭和廿六年六月廿日

(ロ) 又「マカラカル」島及「アバツ」島ニ對スル敵ノ行動モ著シク極化セリ

(ハ) 皇軍ノ強烈ナル闘魂ト簡易ナル攻撃手資材ニ依リ破壞的檢身戦法トニヨリ敵陣營ヲ大イニ畏怖セシメアルモト認ム。

(東通註 誤字多キ為遅延セリ)  
(電信課註 本電九分一三四五七八九既配布)

(3)



五三一 受信一九五〇〇 譯了二〇四〇 第一五〇九七 作編本〇



聯合艦隊

共

符

通電

次長 威

機密第二四二〇三五番

九分ノ九

回遊泳攻撃ニ使用爆撃ハ防濕完全ニシテ點火確實五〇砲程度ノモノ

ニシテ敵艦潛艇船腹(機部)ニ密着シ爆發セシムルトキハ之ヲ

確實ニ爆沈セシメ得又小型機雷ニ依ル船腹當攻撃モ亦成功確實

ナリ攻撃時期ハ月暗時ヨシテ荒天ヲ利用スルヲ可トス

内敷箇所ノ陣地ヲ有スル山砲ノ遊撃的砲撃ハ敵ノ砲撃甚烈ナル事

作戰ニ於テ利用價値大ナリ

一電信課註 本電九分ノ一三三四五六七八既配布

通一六九八四 呂一〇ラ十四(一五七二〇)三週

野木(ヒナ子)

昭和廿五年五月廿七日

五二二四 受信開始 〇〇三四〇三 譯了 〇一〇五 電一 一九三八 作機 〇  
急 二五 譯始 〇〇三四〇三 譯了 〇一〇五 電一 一九三八 作機 〇

作

第五特攻戦隊

佐 口

558

機密第二四二二一一番電

通報 軍務局

貴機密二四一一三五番電關聯

貴方面作戰ノ狀況咬籠ノ母艦ヲ必要トスル場合ハ一〇特攻戦隊ト  
ノ協同作戰トモ關聯同隊ノ波號潜水艦ヲ充當ノコトニ聯合艦隊ニ  
テ考慮セラレアルニ付之ガ用法研究シ置カレ度  
尙基地施設ハ固有展開兵力ノ外他ヨリ集中セラルル兵力ノ收容ヲ  
モ考慮シ極力促進ヲ圖ラレ度。

通一三四二八 呂一Bケ一一(五二〇〇B) 佐通 相澤(小澤あ)

人

五二五

受信〇〇二一八  
譯始〇三〇〇

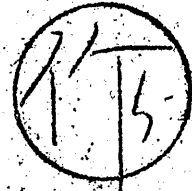
譯了〇三五〇 電一一九七五

參作  
本稿

昭和七年五月廿八日

緊急

二六根



二六根戰團概報着信艦所。第三南遣艦隊各P。第三南遣艦隊P

機密第二四二一三五番電

六KB戰團概報 二十四日

六ドルバ出港D一 驅潛艇一 針路北入港D一 驅潛艇

一 病院船一 碇泊一七三〇T大型二三 中型一二 小型七 油槽

船大型一 中型一 病院船一 D一三 驅潛艇一五 魚雷艇四 海

上トラツク二五 上陸用舟艇大型三四 普通四四

三モロタイ發進機針路北乃至西大型一九 中型二〇計三九。

通一三四九〇 呂一Bラ十八(六一二二五) 二一通吹花(森田)



五二五

受信開始  
〇〇七四二五

譯丁一〇〇〇  
電一二一一五

參作  
本概

至急

高警

560



- 東京通信隊
- 海軍線隊
- 海上護衛線口
- 支那方面艦隊
- 海警隊
- 馬根
- 南西方面艦隊
- 高根
- 支隊
- 艦隊
- 基隆防備隊
- 臺灣航空艦隊
- 高雄警備隊

機密第二四二二一〇番電

五月二十三日敵機來襲情況

六〇八四二五リ一三〇〇ノ間B一二四二機B一二五一機不明機一

機計四機各單機ニテ東西海岸哨戒南方ニ退去セリ

三二〇〇〇ヨリ二十四日〇五三〇ノ間B一二四一二機西海岸哨戒内

B一二四八機ハ臺北市ニ侵入焼夷彈數發投下南方ニ退去セリ

三日ノ夜間來襲情況ハ各機數回反覆飛來シ然モ昨今兩日天候雨晝間

通一三五三六 呂一五ヲ十八(四七〇五)KC(高通)今村(五島)

昭和廿年五月廿八日

攻撃極メテ閑散ナルニ引換ヘ投擲極メテ少キハ神經戰的効果ヲ主目的  
トセル來襲ト判斷セラル

四 戰果ナシ

五 被害陸海軍共ニナシ民間側臺東地區ニ家屋破壊燒失計六戸死傷二名

人

五二五

受信開始  
〇〇三三〇〇

譯了〇七四五 電一三〇七八

航作  
本機〇

昭和廿五年五月廿八日

至急

木更津航空基地

56



海軍艦隊中・鹿屋航空基地  
東通

機密第二四二二一六番覽

通報 大海參二部長

第三航空艦隊信電令作第ニ〇號

第七五二航空隊司令ハ二十六日以後成ルベク速ニG B信電令作第<sup>五九</sup>號

ニ依リP Bニ影響ニ機ノ進出及在南島島人員ノ收容ヲ實施スベシ。

機密第一八七 呂一〇ケ十一 (三九八五K) 七FGB放 原(土) (参)



五三〇 受信一八一六 三 了〇九二六 電一四九四九 作概〇  
開始二〇二〇

聯合艦隊

共符

機密第二五〇六四七番電 四分ノ四

先長 成 來襲機八三機ニシテ先旬(五三機)ニ比シ稍活潑

ナリ

「ベリリユー島」バラオ諸島

「我ガニマカツサル」島周縁敵艦艇ノ覆滅作戦ハ着々其ノ成果ヲ

収メツツアリテ二十日迄ニ判明セシ戦果左ノ如シ(既報ヲ含メ)

ス

艦艇撃沈一大破一小破一人員被害一五以上

(四)我が方積得サシ

電信謀略 遂ニ四分ノ一既配布・四分ノ二ニ至リテ素着

一六四六九 呂一Bラ一四一五七一〇(三機)増田(小澤)

昭和廿五年五月廿五日

人

六五

三一

受信一九二〇  
開始〇八一五

譯了〇八四五

電〇〇二二一

作 概〇

563

守 通 信 隊



● 東通・通信文内容表示閉鎖電報・大連。第一千歳航空基地

● 中央(譯通)・聯合機隊中・大警戸

機密第二五二〇五一番電 七分ノ三

日ソノ聯飛行場不時着ノ場合人員ハ搭乘機ニ復歸ヲ禁止セララルベキ  
事アルヲ以テ私物ハ機テ携行スベシ又中立國ノ被留者トシテノ同  
情ヲ得ル爲舉措動作ニ注意スベシ飛行場以外ノ土地ニ不時着セバ基  
地ト連絡ニカムベシ電報ノ保續時間約三時間ナリ。

● 電報課註 本電七分ノ一、二、四、五、六、七既配布

通〇〇〇二九 呂一ケ一 大湊 丸山(小幡)

昭和四年六月五日



昭和廿五年五月卅日

五二七 受信一三三五 譯丁一五四〇 電一三〇四六 作概〇  
緊急

● 二六根戰團概報着信艦所・三南遣艦隊各下・三南遣艦隊

● 二六根

564



● 二六根戰團概報第二五二〇三九番電

六五B 戰團概報二十五日

一〇八〇〇單發六下アソガ地區一四三〇單發二カウ地區銃擊

戰果被寫メシ

三〇ル出港中大型三中型二〇航レ空船一小型一D三〇一針一東

中型一〇一針路北入港中大型一中型一小型一外上陸用舟一

(航レ空船) D三航迫一八〇〇中大型一九中型九小型七油船

一中型一病院船一D一五七海虎二二二上陸用舟艇大型三

三〇口夕イ發進船舶針路北乃西大型三八中型二四小型一計六三

通一四六四四 呂一Dラ一八六二二二五(二一)通 石川(小津)

五二八

至急

共

符

電一四一〇四 作概〇

昭和廿五年五月卅三日

565



● 海上護衛總部隊各PT  
 ● 大海參一部・海軍總隊口。口一、五三驅逐隊。汐風・朝顔  
 機密第二七二〇一七番電

發 G E D 參謀長

今同海軍總隊電令第三〇、三二及三三號ニヨリ驅逐艦及監視艇ヲ夫々  
 K O D、S O B、H K D 及七ヨニ編入セラレタル處右ハ瀬戸内海及關  
 門地區ニ於ケル機雷對策ノ強化ヲ企圖セラレタルモノニ付右兵力ノ部  
 署ニ當リテハ左ノ事項ヲ考慮ノ上實施方取計ハレ度

一 驅逐艦ハ重要ナル水道船舶航路ノ集束點竝ニ通信艦所ノ施設ナキ地  
 點等ニ配備シ主トシテ碇泊（燃料節約）ノ上左ノ任務ニ從事セシム  
 二 機雷ノ設置敷設阻止ヲ機雷監視部隊（所）ノ局

通自三七〇〇七

天二〇ケ一

（小澤澄）

地中樞任務

(ロ) 局地ニ於ケル航行管制及航路ノ指示

(ハ) 掃海ノ指導統制及之ヲ援助（掃海員ノ）

(ニ) 海上交通保護機關、掃海部隊トノ通信連絡

ニ、監視艇ハ海上交通上ノ要衝ニ配備シ左ノ要領ニ依リ敵ノ飛行機機雷

ノ監視ヲ主トシ且適當ナル艇ヲ以テ掃海ヲ實施ス

(イ) 陸上ノ機雷監視所（衛所灯臺等ヲ含ム）ト連繫アラシメ其ノ缺ヲ

補フ如クス

(ロ) 監視圏ハ之ヲ重複濃密ナラシム之ガ爲重要ナル海面ハ監視艇艇間

ノ距離ヲ二〇〇〇米乃至三〇〇〇米ニ短縮ス

(ハ) 掃海ニ適當ナルモノハ晝間掃海ニ從事夜間ハ監視配備ニ就ク

五三六

受信日四三〇  
譯始日五〇五

譯日六三〇

電一四三

作檣

昭和四年五月廿五日

緊急

茶

二天根

P

作

着

天根遊園概報着信艦隊、第三南道艦隊P

概報第二七二一五番電

六八B遊園概報

二十七日

針路止 入港大型T一 海上トラツク 九(凱シモ満載) D一大型上陸用舟艇一

艇潛般一 破治 一八〇口 T大型 二二 中型 一三 小型 七 大

院船一 D二 艇潛般一九 魚雷艇五 海上トラツク 三九 土

陸用舟艇大型四二 大型 油槽船一 二 普通通四〇

計三三三 茶遠核針路止 〇五面 大型三八 中型三三 不明二

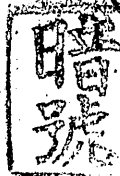
通一五〇九四 岩一Bラ十八(六一二五二五K)三一通 半澤(表白)

緊急

五三〇 受信開始 〇四三七八 了 一〇〇〇 電一四八八七 作概

聯合艦隊

高雄通信隊



二八一二一〇〇

通電先 次長 緩 靖 隼 サキガケ G F

臺參情電第四五八號其ノ二三

(特務艦) 船腹ノ修理箇所長サ三七呎深サ水上五呎ノ位置ヨリ二

三呎ニ達ス船底及機關等悉ク破損

三〇〇二五一七ノニング九一大破炎上死傷者多數アリ救助ヲ求ム

三〇四二五種不詳一隻小破至近彈ニ依リ現在ノ所孔數個アリ

東通註 開始不明ノ爲遅延ス

電信課註 本電其ノ一既配布

一六一八一

協作 (四七〇五) 高田 相澤 (島田)

567

昭和廿年六月三日

五 二九 受信一三一五 譯了一四三五 電一三九九五 作概〇  
 譯始一三四五 電一三九九六

昭和四年五月卅日



南東方面艦隊各PT

機密第二九一二三七番電 二分ノ一二

發 GD長官

南東方面艦隊本職ノ作戰指揮下ヲ離ルルニ當リ訓示ス  
 南東方面艦隊ガ遠ク帝國國防ノ最尖端ニ隔在所在陸軍部隊ト緊密ナル  
 協同ノ下ニ有ラユル創意工夫ヲ凝シテ築城整備及訓練ニ邁進スルト共  
 ニ衆敵ノ後方ヲ奇襲ニ努メ偉功ヲ奏シツツアルハ本職ノ感激措ク能  
 ハザル所ナリ今ヤ戰局建ニ重大ニシテ正ニ最後ノ決戰段階ニ突入シ決  
 戰正面ニ對スル敵兵力ノ集中阻止並ニ敵動靜ノ偵知今日ヨリ重大ナル  
 通 一五七五五 呂一Bケ一( B ) G P P 甲田(島田) H

ハナシ此ノ重大戦機ニ當リ益困苦缺乏ニ耐ヘ<sup>報</sup>強ナル作戰ヲ以テ衆敵  
ヲ拘束漸滅シ以テ皇軍ノ全般作戰ニ寄與センコトヲ切望ス終リニ臨ミ  
幾多殉國ノ英靈ニ對シ衷心敬悼ノ意ヲ表スルト共ニ貴艦隊ノ武運長久  
ヲ祈ル。

五 二九

受信一八一六  
開始二〇〇〇

了二一〇〇

電一四一四三  
電一四一四四

昭和廿年五月廿四日  
作 概 ○

至 急

大 湊 通

聯合艦隊口・海上護衛總司令部部隊

機密第二九一四一九番電 二分ノ六二

發 大 警

一二AF司令長官北洋作戰部隊ニ訓示 北洋作戰ハ目下ノ處極メテ  
順調ニ進捗シツツアル之一ニ諸官ノ絶大ナル努力ノ賜ノニシテ本職  
ノ大イニ満足スル所ナリ

抑キ本作戦ノ成否ハ北東方面ノ陸海軍ノ防備並ニ決戦作戰ノ準備ニ

至大ナル影響アリ萬難ヲ排シ急速ニ完遂スルヲ要ス

敵ハ既ニ本作戦ヲ千島防備強化ト解シ今ヤ潜水艦及航空機ヲ以テ本

格的ニ攻撃セントシアリ諸官ハ一層計畫ヲ綿密ニ準備ヲ周徹ニシ常

ニ至敵ヲ警戒ナシ見敵必決ヲ以テ本作戦ノ完遂ニ邁進センコトヲ





五  
三二九 受信二二三〇八 譯了〇九〇〇 第一四四三四 作機〇  
三〇九 譯始〇六三〇八

昭和四年五月卅五日



海軍總隊各部隊  
海軍總隊  
一〇方面艦隊  
南東方面艦隊  
南西方面艦隊

570

海軍總司令長官

機密第一九一八四五番

海軍中將小澤治三郎着任ニ際

機密第一九一八四五番	訓示	訓示	訓示	訓示	訓示	訓示	訓示	訓示	訓示
A	B	C	D	E	F	G	H	I	J

本職此ノ度措ラズモ海軍總隊統率ノ大命ヲ拜ス誠ニ恐懼感激ニ堪ヘズ  
 戰局今ヤ最後ノ決戰段階ニ突入正ニ皇國ノ隆替ヲ決スル秋ナリ本職ハ  
 此ノ難局ニ處シ陸軍及大本營直轄海軍部隊ト緊密ナル連繫協同ノ下總  
 隊各部隊ノ善謀敢闘ニ信恣シ飽ク迄天一號作戰ヲ完遂以テ攻勢轉移ノ  
 神機ヲ作為セントス然リト雖モ敵ハ反抗ノ鋒芒ヲ尙脱クシ近ク一舉ニ  
 通一六〇〇四八  
 一六〇八三  
 呂一Bケ八  
 B  
 G F D  
 望月・小田(心下)(1)

本土ニ來攻短期終戦ヲ企圖スベク又優勢ナル基地航空兵力ヲ以テスル本  
 土空襲ヲ敵々激化シ我國力ノ無力化ヲ強行シツツアリテ本土防備ニ忍  
 ニスベカラズ内地所在部隊ハ一人ノ遊兵一物ノ遊休ナカラシメ全力ヲ盡  
 シテ速ニ不敗ノ堅壘ヲ完備スルト共ニ戦力ノ充實持久ニ努メ以テ攻防一  
 如ノ態勢ヲ確立スルヲ要ス開戦以來幾多ノ戦例ハ周密ナル計畫準備ニ精  
 到ナル訓練及至誠ニ出ズル積極果敢ナル攻堅精神ガ克ク數ノ本ヲ克服シ  
 寄極ノ勝利ヲ招來スルモノナルコトヲ訓ヘタリ今後戦況ハ益苛烈ヲ加フ  
 ルヤ必セリ各級指揮官ヲ始メ下一兵ニ至ル迄敵々必勝ノ信念ヲ貫持シ殊  
 死奮戦覚レテ尙已マズンバ皇國ノ彌榮期シテ待ツベク上聖明ニ應フルヲ  
 得ベシ諸子夫レ更ニ一層奮勵努力セヨ。

五三一  
至急

受信開始  
〇〇一〇二七  
〇一四五

丁〇二〇〇

電一四七六三

作概〇

昭和四年五月卅五日

14

大連、冷山各在勤武官、青根、?

大連第一師、海上護衛隊、  
支那方面護衛隊、一〇三戰隊、  
護衛隊、  
旅順根

機密第三〇〇九四五番電 二分ノ一二

電令作第一七號

一、千島根護衛部隊一〇三、及瀋陽警備九、二、二六ニ對スル本職

ノ指揮ヲ解ク

二、黃海方面部隊ノ編成ヲ解ト黒山島部隊及大東部隊ハ荷衣島又ハ大

東灣ニ於ケル指示ヲ、各擔任哨戒線ノ哨戒ヲ實施スベシ 但シ

黒山島部隊ノ擔任哨戒線ヲ一三、一四、一五哨線トス

三、冷山武官及大連武官ハ日浦支團一貫護衛ニ關シ第一海上護衛隊指

揮官ノ指揮ヲ受クベシ

四、本令ノ發効ヲ六月一日〇〇〇〇トス。

一六四五六 天二日六一一七二二五〇  
中島(遺田)

9

五三〇

受領六九  
紙七三〇

了八〇電一四五七七

作動  
立

急

共

作  
報  
通  
横  
通

伊勢  
第一  
第二  
第三  
第四  
第五  
第六  
第七  
第八  
第九  
第十  
第十一  
第十二  
第十三  
第十四  
第十五  
第十六  
第十七  
第十八  
第十九  
第二十  
第二十一  
第二十二  
第二十三  
第二十四  
第二十五  
第二十六  
第二十七  
第二十八  
第二十九  
第三十  
第三十一  
第三十二  
第三十三  
第三十四  
第三十五  
第三十六  
第三十七  
第三十八  
第三十九  
第四十  
第四十一  
第四十二  
第四十三  
第四十四  
第四十五  
第四十六  
第四十七  
第四十八  
第四十九  
第五十  
第五十一  
第五十二  
第五十三  
第五十四  
第五十五  
第五十六  
第五十七  
第五十八  
第五十九  
第六十  
第六十一  
第六十二  
第六十三  
第六十四  
第六十五  
第六十六  
第六十七  
第六十八  
第六十九  
第七十  
第七十一  
第七十二  
第七十三  
第七十四  
第七十五  
第七十六  
第七十七  
第七十八  
第七十九  
第八十  
第八十一  
第八十二  
第八十三  
第八十四  
第八十五  
第八十六  
第八十七  
第八十八  
第八十九  
第九十  
第九十一  
第九十二  
第九十三  
第九十四  
第九十五  
第九十六  
第九十七  
第九十八  
第九十九  
第一百

海軍省  
第一  
第二  
第三  
第四  
第五  
第六  
第七  
第八  
第九  
第十  
第十一  
第十二  
第十三  
第十四  
第十五  
第十六  
第十七  
第十八  
第十九  
第二十  
第二十一  
第二十二  
第二十三  
第二十四  
第二十五  
第二十六  
第二十七  
第二十八  
第二十九  
第三十  
第三十一  
第三十二  
第三十三  
第三十四  
第三十五  
第三十六  
第三十七  
第三十八  
第三十九  
第四十  
第四十一  
第四十二  
第四十三  
第四十四  
第四十五  
第四十六  
第四十七  
第四十八  
第四十九  
第五十  
第五十一  
第五十二  
第五十三  
第五十四  
第五十五  
第五十六  
第五十七  
第五十八  
第五十九  
第六十  
第六十一  
第六十二  
第六十三  
第六十四  
第六十五  
第六十六  
第六十七  
第六十八  
第六十九  
第七十  
第七十一  
第七十二  
第七十三  
第七十四  
第七十五  
第七十六  
第七十七  
第七十八  
第七十九  
第八十  
第八十一  
第八十二  
第八十三  
第八十四  
第八十五  
第八十六  
第八十七  
第八十八  
第八十九  
第九十  
第九十一  
第九十二  
第九十三  
第九十四  
第九十五  
第九十六  
第九十七  
第九十八  
第九十九  
第一百

通  
天  
横  
頭  
貝

海軍

昭和五年五月卅三日

電信課  
第十課

人

五三一

電波一四三〇 電波一七〇〇 電波〇〇四九 作概〇

開始一六〇〇

作

報

長	横	鎮	警	備	隊	中	隊	隊	隊	隊	隊
長	鎮	鎮	隊	隊	隊	隊	隊	隊	隊	隊	隊

司令部本部 隊F. 隊P. 隊D. 隊S. 隊T. 隊U. 隊V. 隊W. 隊X. 隊Y. 隊Z.

機密中二〇一〇の五番電 二分一

六月一日〇〇〇以降 横鎮警備区内に於ける敵の飛行機を情報（主として肉眼監視に依る）を左に要領を依り放送

一 使用暗號書リヤ甲

二 使用電波一三〇KC（電探情報中同挿入）

三 電表表示方法

（第四電表表示法に依る）但し一正劃ヲ一〇哩止更ニ之ヲ細別

スレ坊合

（電信課註 二分二未了）

昭和十年六月五日

五三一 受信〇一〇一 譯始〇一五〇

譯了〇五五〇 電自一四九八二 至一四九八五

作概〇

緊急

隊

隊

作

報

鮮南哨戒部隊

海上護衛總部隊各口。支那方面艦隊。上海根。第一護衛部隊。傳多在勤武官。若松在勤武官。門司在勤武官。大連在勤武官。釜山在勤武官。天津在勤武官。黃海方面部隊。九〇三航空隊。

機密第三〇一四五〇番電

七分一二五七

通報

塘 活存勤武官

鮮南方面護衛部隊電令作第一號六月一日〇〇〇〇發動

G即B電令作第四七九號關聯

一日下電令作第七二號二依鮮南方面護衛部隊作戰

一日下電令作第七三號二依外左二依

通

天二B付十一 B 吳通

一六六二七  
一六六二八  
一八六二〇

長谷川  
小野寺 (增月田) (1)  
伊藤

- 一、兵力部署（部隊名、指揮官、兵力、主任務、順）
  - (1) 哨戒部隊 第一海防隊司令 第二海防隊 海二海三四屋
  - 代海四海八二掃一七駆潛六〇 對馬哨戒帶哨戒
  - (2) 護衛部隊 本職直率 第二海防隊 第九海防隊（海一）
  - 九二海二六鉄一船團一貫護衛

二七分、三四未着、以下七分、五

第一船團「夕〇」船團

- (1) 航路ハ沿岸接航航路ヲ建前トス
- (2) 船團ニ関スル編成ハ成ルベク同一速力ノモノヲ以テ編成特ニ重要
- 船團（油槽船）ニハ護衛センルヲ建前トス

護衛哨戒掃湯

(1) 哨戒帶哨區

對馬哨戒帶ヲ及、哨區ニ分ソ、對南哨戒帶濟東哨  
戒帶濟北哨戒帶、各哨區ハ其儘存續スルモノトス

二七分六未着、以下七分、七  
機密鮮南哨戒B命令第一〇八號訂正

五通信別令  
六、遊泊地金山三十浦、麗水カ莫洋所守港對馬、荷衣島群  
山嶺江灣

三、電信課註 本電七分、三四六未着

(2)

人



五三  
愛信〇三二七  
澤始〇七五〇

澤了〇八五三  
電一四八六一

航作概

575

横鎮部下艦所

機密第三〇一六四五番電

横鎮管區敵機未襲概報(五月三十日)

一日十二九一機二四五御前場ヨリ侵入富士山東京ヲ經テ佐原港

ヨリ反轉浦和八王子横濱ヲ偵察後一二五六房總南都ヨリ

脱去

二日一二四一機二四四勝浦東方ヨリ近接房總南岸ヲ低空偵

察、後一二〇〇噴大島ヲ經テ脱去

通一六七〇

号一B三十八(五一〇〇K)横通

字跡(増田)

局長							
課長							
A							
B							
E							
J							
G							
H							
D							







五三一

受信一七四三  
譯始二〇二〇

譯丁二三五〇  
爾自〇〇〇三四  
至〇〇〇〇三六

航作  
本本〇



三〇根戰圖概報着信艦所・先遣部隊

四六警備隊・ヤツブ航空基地

機密第三〇一八三六番電 三分ノ六三三

三〇根戰圖概報（五月三十日）

一、最近當方面敵ノ行動及ヨリ二四ノ水平爆撃ハ低調ナリ

二、敵ハ「パラオ」地區ニ對シ本月十八日ヨリ傳單ノ散布ヲ開始以後

之ヲ續行シツツアリ一三〇マリアナツ北上小型約四四機「サイ

パン」島方面ノ基地ヲ多ク使用シ居レリ

通一六九三〇 一六九三八 呂一ブラー四（一五七一〇）三通 相停（上  
通一六九八六

昭和廿六年六月五日

三 P P 附近行動敵艦船

イ) 〇六二二 油槽船一 (八千噸級滿載) コスソル水道

ロ) 〇七二九 輸送船一 (八千噸級滿載) コスソル水道入港 一五五〇

出港

イ) 一三三〇 帆船一 (マスト二本機銃ナシ) アルコルン岬ノ六〇度

三〇 紆北上 一五三〇 見失フ

視界内敵艦艇碇泊状況

イ) コスソル水道 小型輸送船二 大型油槽船二 (何レモ滿載) 小艦艇

九

ロ) ベリリユ一 周邊掃海艇五 小艦艇八

五 昨二十九日 〇〇一五ヨリ 〇五三〇迄 敵機一機 〇五四五ヨリ 一六

二〇 四〇一 一七機 T B F 一 六機 F 六 F 一 一機 計三五

P P 二 來襲 敵機

六 敵機 P P P 發着

昭和六年六月五日

初昨二十九日一一〇〇ヨリ一六〇〇迄輸送機三機九〇度へ發三

機九〇度ヨリ五機一八〇度ヨリ着日二四一機〇度へ二機

二七〇度へ發(二十九日計輸送機發九機着日二四四機發

大型機二機着)

(同)本三十日一一〇〇迄輸送機四機九〇度へ一三機一八〇度へ一

四機二七〇度へ發一機九〇度ヨリ着日二四一機〇度へ發

大型機一機九〇度へ發

緊急

五三一

受信一三五九  
譯始一四一〇

譯了二五二〇 電一五〇〇〇

共 符

作動  
昭和十六年六月五日

作

着

東通・佐通・高通・六艦隊P・五潛水隊

五基地航空部隊・南遣艦隊P・根P

機密第三二一〇一七番電

578

發

伊號第三五一潛水艦艦長

宛

聯合艦隊司令長官・佐世保鎮守府司令長官

通報

大本營海軍部軍務局

一本艦

行動豫定

六月一日地點(三三三)

二日シヒヤ(以上正午位置)

三日〇六〇〇 大瀬崎燈臺一三〇〇 佐世保着水路指示

ヲ得度 殊示識別全部表示

航空揮発油揚塔作業ハ入港直後開始シ得ル始メ御配慮

ヲ得度 六月一日二〇〇高雄通信係ヲ去リ佐世保放送通信系第六艦隊内

通信系ニ入ル

通一六八四一 署一B行十一(五二九五地)六百口放 廿助(増田)

ノ

五三一  
受信一九四〇  
丁二〇四〇  
電一五〇九〇

緊  
急  
符  
號  
共  
符



吳  
通

通

機密第三一一五五二番電

三燃料廠長

吳鎮長官

通報一軍需局長

本三十一日一三二〇敵大型機七來變廠內南部油槽地帶第五分解裝置附  
近爆彈(二〇〇底)推定(七發)海中(五發)投下同方面施設(被書  
ナシ。

通一六九四二  
天二Bケ一(一)B  
吳通  
吳山(金森)

昭和廿六年六月

軍統作  
織本  
需

579

1

五三一 愛備二三三三  
調始二三三五  
調了二三三〇 重〇〇一〇四  
昭和廿年六月五日  
航作概本〇

作戰緊急

護々浦航空隊



● 國分第一航空基地

● 海軍總隊口・人軍局・五航空總隊口・百里原空

機務第三一二〇〇七番

第一〇航空總隊首席參謀

第七二二航空隊司令

第一國分基地機務第三一二一三六番電返

進出搭乗員ノ取扱ハ總隊機務第三〇二一二八番請ニ依リ處理ノコト

トセラレ度

尙是非共交代者ヲ必要トスル場合ハ百里原空ヨリ貴隊ニ轉出セシム

ルヲ適當ト認ム

一七〇八九 呂一〇ケ十一(一七三三三)一〇▲▲▲ 岩田(上野)